

ギャンブル等依存症における家族支援のあり方を考えよう

○吉田 有里¹⁾、辰見 由紀子¹⁾、村上 篤紀²⁾、吉井 ひろ子³⁾

- 1) 公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 ギャンブル依存症者を家族に持つNs部会、
2) 公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 当事者支援部、3) 関西国際大学 保健医療学部

ギャンブル等依存症問題は近年、借金額の増加、触法行為、若年化など、多様な問題へ発展しています。特に、スマートフォン一台で時間や場所を選ばず利用できるオンラインギャンブルの普及により、問題が深刻化しています。ギャンブル等依存症者の家族は当事者のギャンブル問題に直面する中で、借金の肩代わりや過度な行動監視などの対応をとり、結果として問題を抱え込み、状況を悪化させてしまうことがあります。当事者支援に比べ、家族が抱える困難や支援ニーズは可視化されにくく、家族支援の重要性が十分に認識されているとは言い難い現状があります。そこで、私たちNs部会はギャンブル等依存症者を家族に持つ看護師によって発足し、当事者性と専門性を活かした家族支援を行っております。本ワークショップでは、当事者および家族の体験を通して明らかになった、支援上の課題や、家族支援の重要性、当事者を支援につなげる仕組みを共有します。質疑応答形式で参加者の皆様と意見交換を行い、現場での実践や課題について自由に発言できる場を設け、参加者同士の経験や考えを共有しながら、ともに家族支援のあり方を考える機会となれば幸いです。ワークショップに是非ご参加ください。本ワークショップで取り扱う体験談は、個人が特定されないよう匿名化し、必要に応じて内容の一部を修正しています。発表にあたっては当事者本人の自由意思による同意を得ています。なお、プライバシー保護および参加者の心理的負担に十分配慮して実施します。加えて、質疑応答や意見交換の際には、参加者に対し、共有内容を外部へ持ち出さないことを事前に周知し、守秘が保たれるよう配慮します。本発表に関して、発表者および共同発表者を含め、開示すべき利益相反はありません。